２０１９年１２月１日（日）　　第一アドベント聖日説教　第二礼拝

黒田　禎一郎

主　題：「ダビデの子にホサナ！」

ー主がお入用なのですー

テキスト：マタイ福音書２１章1～9節

はじめに

・今日、私たちは第一アドベント（待降節）を迎えました。時の流れの速さに驚きます。クリスマスは、もうそこまで来ています。皆さんはアドベント（待降節）と聞かれると，いったい何を思い出されるでしょうか？　　きっと、　それぞれが思い出をお持ちでしょう。

・しかしアドベントを象徴するものは，なんといってもアドベント・リースです。アドベント・リースとは，緑色のもみの木の葉で作られた輪に４本のローソクが建てられ，真ん中にイエスキリストを象徴するロウソクが立てられます。

・第一アドベントには、第１番目のロウソクに灯を灯します。順に２本目，３本目，４本目と灯を照らします。４本目のろうそくに灯がともると、クリスマスを迎えます。そしてクリスマスの日に、真ん中のロウソクに灯をともします。

・ところで、ロウソクには象徴的な意味が秘められています。第一アドベントのロウソクは「期待」，第２アドベントのロウソクは「備え」，第三アドベントのロウソクは「灯」，そして第四アドベントのロウソクは「約束」を象徴しています。

・そこで今日は第一アドベントですので，「期待」について考えます。先ず今日のテキストから分かるように、イエス時代のユダヤ人たちは、神の御子であるメシア到来を待ち望んでいました。彼らは政治的には、ローマの支配下に置かれていました。メシアが来ると、政治的にイスラエル国を救ってくれるという期待がありました。

・群衆はイエスのうわさを耳にしていました。そのイエスが、エルサレムに来られたことを聞いた。群衆は大喜びで道路に上着を引き、大声でイエスを迎えました。彼らは，「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」（9節）、と叫んだ。ホサナ！(Save us now!)．それは彼らの「期待」（歓迎）でありました。

・ダビデの子：救い主（メシア）、　　ホサナ：”Save us now”

⇒これは、私たち（全人類）の叫び、イスラエルの民はイエスに期待を寄せたのです。

・ところで、あなたは人生にどんな期待を持っておられますか？　人はだれでも、祝福された人生を過ごしたいという願い[期待]があります。人生で期待を持つ人は、生き生きしてきます。なぜなら，期待は希望を生み、モチベーションをアップ（あなたにやる気

を与える）させるからです。

＊今日、私たちは第一アドベントを迎え「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。」、というみことばから学びましょう。２点

大切なポイント

１．主がお入用です

１）当時、人々は過越しの祭りの時、エルサレムに上ることが常でした。

イエスは弟子たちと祭りの６日前に、オリーブ山に近いベテパゲに到着しした。それは金曜日、安息日でした。主の安息日を終えてエルサレムの都に入ったのは、日曜日でした。

・都は群衆で大混雑していました。人々はイエスを見て、あの「ナザレのイエス」と分かると、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に。」（マタイ21:9）彼らの歓迎ぶりは、その前に記録されています。

21:7 そして、ろばと、ろばの子とを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。

21:8 すると、群衆のうち大ぜいの者が、自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの人々は、木の枝を切って来て、道に敷いた。

＊ 皆さん。このことが後の人類史に大きな変化を与えることになるとは、いったい誰が予想したでしょうか？　じつは、イエスによって世界の歴史は2分されました。４福音書は、すべてイエスのエルサレム入城を記録しています。世界はこのお方によって変化し、また光と闇の世界に２分するようになりました。

２）じつは、イエスは都に入られる前に、すでに預言的なことばを語られましした。

21:2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。

21:3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。」

・ 群衆はイエスに向かい「ダビデの子」と叫びましたが、それはメシア（救い主）の称号を意味していました。なぜなら、メシアはイスラエルのダビデ王の子孫から来るからです。そこでメシアは「ダビデの子」と呼ばれるとあるからです。世を救うお方が白馬に乗って都に入城するのでなく、ロバの子に乗ってです。これはイエスの貧しさ、謙遜を象徴しているようです。では、なぜイエスはロバの子に乗られたのでしょうか？

① ロバの真のオーナーはイエス〔神〕である。ヨハネ福音書は、「この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」　（1:2―3）と語って

いる。

② ユダヤ人たちは、モーセの律法を守っていました。イスラエルでは、人が乗ったことがない動物ロバは、聖であり、神への捧げものでした。また作物の初めの実も、神への捧げ物で、汚れのないものとされました。

③ ロバの所有者は、世界を造られたお方の要求に従順でした。

「主がお入用なのです。」ロバの所有者については、どこにも書かれていません。しかし所有者はイエスにロバを提供する備えがありました。

＊私たちは「主がお入用なのです」と言われて、主に提供する備えがあるでしょうか？神がもっとも大切とされ、聖とされる重要とされるものを提供してきたでしょうか？

２．主をお迎えするのです

１）　預言者ザカリヤはＢＣ５１８－５２０、次のように語りました。

9:9 シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。

・マタイ２１：８，９では群衆の多くが、この世の王をお迎えするように叫んだ、とあります。「ホザナ！祝福あれ。」⇒　今、お救いください。〔アラム語〕
他の福音書にも、主をお迎えする箇所がああります。

① マルコ福音書　11:10

「祝福あれ。いま来た、われらの父ダビデの国に。ホサナ。いと高き所に。」

② ルカ　19:38

こう言った。「祝福あれ。主の御名によって来られる王に。天には平和。栄光は、いと高き所に。」

③ ヨハネ12:13

しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。「ホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。」

・ これらの言葉は、みなイエスがメシアであり主であることを示しています。
彼らは「ダビデの子にホサナ！」と叫びまし。私たちは今、ダビデの子イエス・キリストに、何と言うでしょうか？　ほんとうに、主の御名をたたえているでしょうか？　主を歓迎し、お迎えしているでしょうか。

２）主をお迎えするとはどういうことか

・聖書にはイエスをお迎えしたストーリーが幾つもある。
復活されたイエスが、あのガリラヤ湖畔で愛弟子ペテロに姿を現されまし　た（ヨハネ２１：１５以降)。その時、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」　ペテロはイエスに言っ

た。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」（21:15）

- ここでイエスは、先ず「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」　で尋ねられました。ここにある「愛」とは、「アガペーの愛」（無条件愛）が用いられています。それに対して、
- ペテロは「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」と答えました。ここで使われた「愛」は「フィリオ愛」（友愛、博愛、人情的な愛）でした。では、イエスはなぜ「アガペー愛」でペテロに尋ねたか？　⇒　結論として、神との交わりはそこにあるからです。しかし、イエスの十字架、復活が完了した後、イエスが愛弟子ペテロに求められたことは、アガペー愛で主に応答することでした。（可能となった）
- 人が持っている「フィリオ愛」も大切です。しかし、それはあのエルサレムの都の群衆のようです。　彼らはあの後、みなイエスを見捨ててしまい、ちりちりバラバラになりました。人は、みなそのようなものです。彼らはイエスに期待しましたが、それは「フィレオ愛」によるもので限界がありました。主イエスを迎えるということは、「主の愛」（アガペー愛）で応答することです。いかがでしょうか・・・？
- 私たちは、①多忙で時間が足りないと言います（確かにそうす）。②神を賛美する気持ちにならない、と言います（余裕がないとも言います）すなわち、私たちのモチベーションが上がりません。なぜなら期待したように、物事が進みませんし、祈りの応答もないからです。期待したように、状態が変わらないからです。
- しかし考えれば、これら全ては人間的、肉によるものである（I center:利己主義）。エルサレムの都でイエスを歓迎した群衆は、皆その人間的な思いで自分たちをローマから救出してくれる王（メシア）を求めました。
  しかし、そこには限界がありました。現代も然りです。私たちは教会で、また交わりで、何を求めているでしょうか？何を期待しているでしょうか・・・？
- しかしイエスは、そういう人々をも愛してくださいました。そして十字架にかかり、死から三日目によみがえられました。　ハレルヤ！！

・すでに、イエスの救いのみわざは完了しました。

聖　書:「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださった　からです。」
１ヨハネ4:19

主をお迎えするとは、神が「アガペー愛」で迎えてくださったように、私たちもその同じ愛で応答することなのです。では、どうすれば良いでしょうか？　⇒　神の愛の内にたっぷり漬かることです。「アガペー愛」に満たされることです。

・十字架の影に身を隠さねば、十字架の愛に包まれなければ、私たちには何もありません。何もできなくても良いのです。いいえ、何も出来なことが良いのです。
・神は、何かが出来るというあなたを用いられるのではありません。いいえ、出来ないあなたを持ちたいと願っておられるます。出来ないあなたの内で、神が栄光を現したいと願っておられるのです。
・何もできないあなたになるために、神は訓練（試練）を与えておられます。
神にお委ねできるあなたになるためです。先人の立派なキリスト者の働きを見るなら

ば、例外なく、何かが出来る人ではなく、神にお委ねした人が多くいます。

・しかし、試練という苦しみの中にあっても、主が必ず傍らにいてくださいます。そして、私たちが倒れないよう支えてくださいます。丁度、自転車に乗る練習をしている子どもの、後方にお父さんが支えてくれているようにです。子どもはお父さんがいるから、安心してペダルをこぎます。しかし、いつの間にか気づいた頃には、一人で走っているのです。それが自転車の乗りを教えるお父さんです。

・私たち肉の親でもこのように、子どもの側にいてイザという時は、助けようとします。まして天地をお造りくださった愛の神は、私たちから離れるお方ではありません。いいえ、私たちの側にいてくださいます。私たちは、その神が私と今もいてくださると「期待」しましょう。それが信仰なのです。

ま　と　め

テーマ：「ダビデの子にホサナ！」

ー主がお入り用なのですー

・今日、私たちは第一待降節を迎えました。どんな心の姿勢で、アドベントを迎えているでしょうか？　アドベント・キャンドルの第1本目は、「期待」を象徴しています。

・エルサレムのユダヤ人たちは、イエスに大きな期待を寄せていました。そして「ダビデの子にホサナ！」と叫びましだ。私たちは何を学ぶでしょうか？　二つのこと；

1．　私は「主がお入用なのです」と言われたら、どう応答するかです。
　主もあなたに、何かを求めておられるかも知れません。

2．　今日、私は主をどうお迎えするかです。
　「アガペー愛」で応答するでしょうか？

＊ God bless you ！